

（自主研究）水路水位差解消手段としての閘門等に関する資料収集整理

研究主幹 吉田秀樹

1. はじめに

内陸水運・海運は古来より自然エネルギーを利用した大量輸送手段として利用され、現在でも、欧米、東南アジアなどで重要な役割を果たしている。我が国においても江戸～明治時代を中心に重要な役割を果たした。今後地球環境問題などにより内陸水運も見直された場合、河川内での水位差があるため水位差解消手段としての閘門が必要となる。また一方で、内陸水運にそれに関わる商業資源も地域振興に重要となると考えられる。

そこで自主研究として、水位差解消手段としての閘門等に関する技術的な資料収集整理、内陸水運・海運と湊を中心とする拠点都市の商業活動との関係について資料収集整理を平成22年度実施した。

2. 水位差解消手段としての閘門等に関する技術的整理

水位解消手段との必要性、種類、歴史、および閘門の設計に必要となる閘門の構成要素名称、形式、ゲートの形式、基本設計方法について、WEB、論文、技術基準などから資料収集整理を行った。今後さらに最新の情報を収集する必要がある。

3. 閘門に関する技術的観点をはじめとする各種類型化

全国の閘門について、WEB、新聞記事などから資料収集し、全国の閘門分布図、および閘門台帳と整理表を作成した。また、土木技術的に特筆すべき閘門について詳細に資料収集した。しかしながら類型化までは至っていない。

4. 我が国の水運の歴史に関する整理

我が国の閘門整備の背景になった内陸水運の発展と衰退について関東平野と利根川水運網について資料収集整理を行った。また、閘門整備の背景として海運の発展があった伊勢湾海運について資料収集整理を行った。

5. 河岸（河湊）、河口湊の成立と産業の発展に関する整理

（河湊、河口湊についての整理）

内陸水運と河岸（河湊）・産業の発展について、

利根川の代表的な河岸について資料収集した。

代表的な河岸について、河川合流地点、最上流地点、産業集積地点、内陸水運の積み替え場所に分類した。

河口湊については、銚子湊は、全国の他の河口湊と性格が違い、東回り航路の海運と内陸水運の通過地点としての役割であることがわかった。

（定期市に関する整理）

中世以降発展した商業としての定期市、特に「六斎市」（例えば、1と6がつく日に市が立つ、月6回）について整理した。「六斎市」を、WEB書籍等から全国の状況を調べた範囲では、店舗商業の発展とともに全国的に衰退している状況がわかった。現在も「六斎市」が残っているのは、新潟県、秋田県、青森南部岩手北部地方、房総半島、一方、埼玉、群馬、山形では過去盛んであったが現在では衰退していることがわかった。

今も続いている新潟県、秋田県、特に新潟県では、内陸水運の発展と河湊・在郷町の発展と密接な関係にあることがわかった。

新潟の「六斎市」については、信濃川阿賀野川水系沿いに現在も続けられている30以上の「六斎市」の現況を詳細に資料整理するとともに、代表的な「六斎市」については、現状を類型化し、現地調査を行った。また、信濃川阿賀野川水系の内陸水運および新潟湊について整理した。新潟の「六斎市」は、地元の観光資源としての意識は薄いものの、今後観光資源としての価値があり活用が望まれる。

6. おわりに

今回、水路水位差解消手段から、閘門、内陸水運、河湊・河口湊そして定期市を資料収集整理した。しかしながら今回の資料収集整理は、一部WEBや書籍から資料収集整理したものであり、今後さらなる詳細な調査と分析が必要である。

一方、閘門を利用した内陸水運さらには河湊や定期市等は重要な地域資源であり、これらを利用した地域振興が今後重要である。